

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和3年6月1日

枚方市長 殿



提出者

住所 大阪府大阪市中央区南船場1-16-13

氏名 矢野建設株式会社

代表取締役 矢野 勇治

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6265-0740

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	矢野建設株式会社
事業場の所在地	大阪府大阪市中央区南船場一丁目16番13号
計画期間	令和03年04月01日 ～ 令和04年03月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

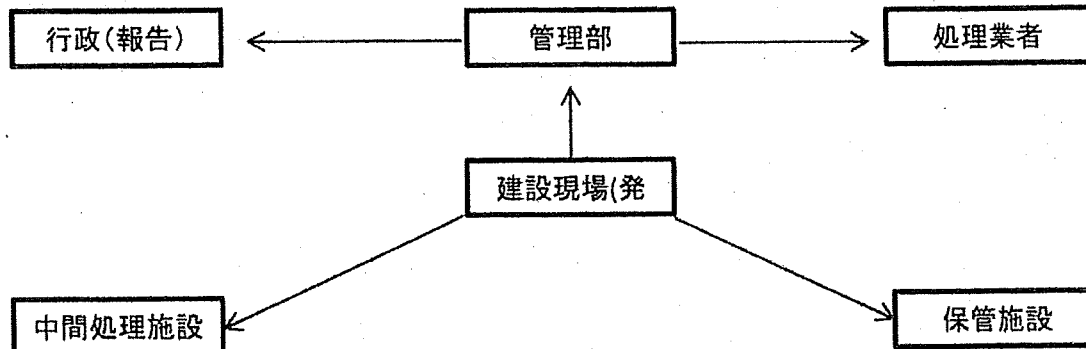
①事業の種類	D06 総合工事業
②事業の規模	5,506,151千円
③従業員数	55名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	建設現場作 → 廃棄物の発生 → 資源の分別 > 中間処理施設(再生) > 中間処理施設(処分) > 保管施設

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ R 2 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	排 出 量	0.35 t	577.14 t
	（これまでに実施した取組） 分別の徹底（がれき類）（コンクリート塊・アスファルト塊）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	排 出 量	1 t	500 t
	（今後実施する予定の取組） 分別の徹底（がれき類）（コンクリート塊・アスファルト塊）		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分別の徹底（がれき類）（コンクリート塊・アスファルト塊）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記取り組みを継続的に続けていく

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
1197 t	6.9 t	6553.888 t	63.982 t

②計画

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
1000 t	5 t	5000 t	50 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

2440 がれき類（石綿含有）			
230.14 t	t	t	t

②計画

2440 がれき類（石綿含有）			
200 t	t	t	t

(第3面-1)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度 (R 2 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 再生利用を行わない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用を行わない		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度 (R 2 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 再生利用を行わない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用を行わない		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

2440 がれき類（石綿含有）			
0 t	t	t	t

②計画

2440 がれき類（石綿含有）			
0 t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

2440 がれき類（石綿含有）			
0 t	t	t	t
0 t	t	t	t

②計画

2440 がれき類（石綿含有）			
0 t	t	t	t
0 t	t	t	t

(第3面-2)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第4面-1)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ R 2 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行わない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行わない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ R 2 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	全処理委託量	0.35 t	577.14 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0.35 t	577.14 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 分別の徹底（がれき類）（コンクリート塊・アスファルト塊）		

(第4面-2)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
1197 t	6.9 t	6553.888 t	63.982 t
0 t	0 t	0 t	0 t
1197 t	6.9 t	6553.888 t	63.982 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第4面-3)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

2440 がれき類 (石綿含有)			
0 t	t	t	t

②計画

2440 がれき類 (石綿含有)			
0 t	t	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

2440 がれき類 (石綿含有)			
230.14 t	t	t	t
t	t	t	t
230.14 t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

(第5面-1)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック	800 木くず
	全処理委託量	1 t	500 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	1 t	500 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 分別の徹底(がれき類)(コンクリート塊・アスファルト塊)		
※事務処理欄			

(第5面-2)

②計画

900 繊維くず	1322 廃石膏ボード	1501 コンクリート塊	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)
1000 t	5 t	5000 t	50 t
0 t	0 t	0 t	0 t
1000 t	5 t	5000 t	50 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第5面-3)

②計画

2440 がれき類 (石綿含有)			
200 t	t	t	t
t	t	t	t
200 t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙の
おり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物
種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記
すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないとき
「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。